同志社の良心教育

大 谷　實

奨励者紹介〔おおや・みのる〕
同志社総長

こういうわけで私は、神に対しても人に対しても、責められることのない良心を絶えず保つように努めています。

（使徒言行録 24章16節）

この度の熊本・大分地震によって被災した皆様に深く同情し、亡くなられた方々に対し哀悼の意を表します。熊本・大分の方々が、一日も早く平静な生活に戻れるように祈ります。

一大総合学園

早速ですが、本日の「メッセージ」に入ります。大学の春学期が始まったところですので、今日は、同志社教育の理念についてお話しします。

同志社は、約10年間のアメリカ滞在から、「教育こそ文明の基である」という確信を抱いて帰国しました、キリスト教の牧師であり、また、宣教師でもありました新島襄によって、1875（明治8）年に創設されました。我が国有数のキリスト教主義の学園です。創設当時は僅か8人の生徒でしたが、只今は、同志社大学、同志社女子大学のほかに、4つの高等学校、4つの中学校、2つの小学校、幼稚園、そして、インターナショナルスクール、併せて14の学校を設置しておりまして、全体で4万3000人を擁する一大総合学園となっています。

一貫教育

「同志社」という名前は、「目的を一つにする同志の結社」という意味であり、学校を作った目的は、いわゆる「良心を手腕に運用する人物」を世に送り出すことにありました。そして、学園の教育理念は、同志社大学正門に建てられている良心碑に刻まれている新島襄の言葉、「良心の全身に充満したる丈夫の起り来らん事を」に象徴される良心教育であります。新島の言う「良心を手腕に運用する人物」の育成、「一国の良心とも謂うべき人々」の養成こそが、「新島の建学の志」にほかなりません。幼稚園から大学まで、一貫して良心教育を目指しているところに、同志社一貫教育の独自性を認めることができるのです。

良心教育

こうして、「同志社の同志社たる所以のものは良心教育である」とされ、良心教育は「同志社ブランド」であるとも言われています。しかし、肝心の良心教育の中身、特に「良心とは何か」という問題となります

と、必ずしも明快なわけではありません。そこで、3年前から「良心教育に関するシンポジウム」を開催し、良心教育の中身を明確にする試みを展開しており、今年も第4回目を予定しているところです。

それでは、良心教育にいう「良心」とは、どのような意味なのでしょうか。良心という言葉は、儒教からきているようですが、国語辞典で調べてみますと、「良心とは、何が善であり、何が悪であるかを知らせ、善を命じ、悪を退ける個人の道徳意識」であるとか、「自身に内在する社会一般の価値観に照らして善悪を判断する心の働き」であるとも説かれています。要するに、「人間の心には、善悪を判断する基準があって、良いことは進んで行い、悪いことは止めるという心の働き」が良心だというのです。

このような一般の理解に対し、新島は、良心とは、キリスト教の全能の神を信じ、真理を愛し、他人に対する思いやりの情に厚い心であると考えました。そして、「良心を手腕に運用する人物」とは、キリスト教に基づく徳育によって、「一国の精神となり、活力となり、柱石となる人物」である。したがって、新島の良心教育は、キリスト教を身につけた人間を育てる教育、神を信じる人物を養成することを徳育の基本とする教育であるということになります。新島の目指した良心教育は、キリスト教教育であると断定してもよさそうです。

conscience

しかし、良心は英語で conscience と言い、前段の「con」は、共にという意味、後段の「science」はサイエンス、つまり、知るとか科学するという意味でありますから、「良い心」とか「悪い心」という意味とは直接関係なく、むしろ、「共に知る」という意味に近く、「良心」とは、他の人と対話し、またはコミュニケーションを通じて、是非を判断する心の働きであるということになります。そうだとしますと、良心教育にとってキリスト教は必ずしも不可欠のものではないということになります。新島は、そのことを自覚していたかどうかは分かりませんが、良心教育にとって、キリスト教の信仰は絶対的な要請ではない、と考えていたように思うのです。

たしかに、新島がキリスト教の信仰を教育の原点に据えていたことは、疑う余地がありません。しかし、誤解を恐れずにあえて申しますと、彼が、キリスト教教育と言わないで、キリスト教主義教育とか良心教育と言っていますのは、キリスト教の信仰に囚われない、一般の青年にも良心教育は可能だと考えたからだと思うのです。彼がいみじくも指摘しているように、当時、キリスト教を信じない人も良心教育に共感する人が増えていたのですし、また、現在の同志社人には、キリスト教の信仰とは関係なく、良心教育に共感し、実践する人が沢山いることも事実です。良心教育にとって、キリスト教の信仰が不可欠であるとしますと、一般の人にとって良心教育は無縁となってしまいます。

そこで大切なことは、キリスト教の全能の神様を信仰してクリスチャンになるかどうかではなくて、たとえば、聖書の「受けるよりは与える方が幸いである」とか、「自分を愛するのと同じように、あなたの隣人を愛しなさい」といったキリスト教の教えを学び、他人との対話、コミュニケーションを通じて、「何が正しいか、正しくないか」また、「許される行動か、許されない行動か」を、自ら主体的に判断し、行動に移すこと。それこそが新島が求めた「良心」ないし良心的行動であると考える次第です。

ちなみに、私はクリスチャンですから、人との対話と共に神様との対話を大切にし、物事の決断に迫られるとき、読書や他人との対話、コミュニケーションを通じて、自分は何をなすべきか、または、何をなしては

ならないかの答えを求めます。そして最後には、祈りを通じて神と対話し、得られた答えを実行するという意識・心構えが良心だと考えています。

良心教育の基礎

こうして、良心教育とは、「良心を手腕に運用する人物」を養成することにほかなりませんが、そのためには、第一に、キリスト教主義の教育が不可欠です。同志社の憲法ともいうべき「寄附行為」という規則では、「キリスト教を徳育の基本とする」と規定されていまして、キリスト教主義教育は、同志社にとって最も大切な原理であることを忘れないでいただきたい。ただし、クリスチャンになることは必ずしも必要ではなく、先ほども申しましたように、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とか、「受けるよりは与える方が幸いである」といった、キリストの教えを教育するということです。

第二に、対話を豊かにして、是非の判断を的確にするためには、自由主義教育が求められます。新島は、「人一人は大切なり」と申しましたが、一人ひとりの個人を大切にするということは、それぞれの個性を大切にし、自ら治め自ら立つ、自治自立の精神を尊重し、もって生まれた才能や能力を最大限に生かす、人間性あふれる人物を育てるということです。

第三は、国際主義教育です。国際主義にはいろいろな意味がありますが、同志社でいう国際主義教育は、かつて「英語の同志社」と言われたように、英語を使いこなし、外国のことをよく理解し、外国との交流を盛んにする、そして、何よりも世界平和に貢献できる人物、国際社会で活躍できる、一流の「国際人」を育てるということです。

同志社の良心教育

これをまとめて申しますと、キリスト教的な考え方に立った人間教育を通じて、人と人との対話・交流を豊かにし、できれば祈りを通じての神との対話を加え、グローバルな観点に立って行動できる人間の育成が同志社の良心教育だということになります。キリスト教主義、自由主義、国際主義を基礎とした良心教育は、同志社教学のミッションであり、同志社ブランドなのです。

おわりに

新島は、良心教育のためには、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」が三位一体となった教育が必要であるとしました。三つ葉のクローバーとしてご存知の同志社マークがその象徴であります。諸君がクリスチャンになるかどうかは一先ず措いて、只今お話しした良心教育に挑戦してくれることを期待し、本日の「メッセージ」を終わります。

2016年4月19日　今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録